

2023年3月期第1四半期決算説明会



2022年8月2日
西日本旅客鉄道株式会社

- 経営戦略部 部長の深野でございます。
- 前任の小田に替わりまして、6月より着任しております。どうぞよろしくお願いいたします。
- 本日はまず、第1四半期決算の概要についてご説明したのち、皆様からのご質問をお受けしたいと思っております。
- それでは資料の3ページをご覧ください。

1 23.3期第1四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

2 23.3期第1四半期決算及び通期予想（詳細） P. 9

1 23.3期第1四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

2 23.3期第1四半期決算及び通期予想（詳細） P. 9

23.3期1Q決算・通期業績予想 ハイライト

- **23.3期第1四半期**は、緩やかな需要回復を背景に、引き続き構造改革の取組みを進捗させたことにより、**連結・単体ともに20.3期以来3期ぶりの黒字**を確保。
- **コスト構造改革**の取組みは、今期単体 **▲200億円**の計画に対し、第1四半期実績は **▲45億円**。
- 感染再拡大や物価高騰の影響など、先行きの不透明感が増しているものの、概ね想定の範囲内で推移していることから、**通期業績予想・配当予想は据え置く**。

	22.3期	23.3期	対前年		23.3期	対前年		対中計見直し
	1Q実績	1Q実績	差額	比率	通期予想	差額	比率	比率
【連結】								
営業収益	2,019	2,971	+951	147.1%	13,090	+2,778	127.0%	90.3%
営業費用	2,513	2,776	+262	110.4%	12,790	+1,288	111.2%	97.6%
営業利益/損失(▲)	▲493	195	+689	-	300	+1,490	-	21.4%
経常利益/損失(▲)	▲515	169	+684	-	135	+1,345	-	10.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益/損失(▲)	▲320	578	+899	-	585	+1,716	-	73.1%
EBITDA	▲105	581	+687	-	1,930	+1,500	449.9%	58.5%
【単体】								
運輸収入	989	1,577	+587	159.4%	6,730	+1,853	138.0%	86.8%
営業費用	1,615	1,665	+49	103.1%	7,645	+598	108.5%	97.4%

*「対中計見直し」の比率は「収益認識に関する会計基準」の影響を加味していません。

3

- 第1四半期につきましては、連結営業収益2,971億円、連結営業利益195億円、連結四半期純利益578億円でございます。
- 運輸収入をはじめとしてご利用の緩やかな回復基調が継続したこと、また、グループをあげて構造改革の取組みに努めたことなどにより、第1四半期としては20年3月期以来3期ぶりに、各利益項目で黒字を確保することができました。
- コスト構造改革の取組みにつきましては、今期単体で▲200億円を削減する計画ですが、第1四半期で▲45億円を削減しています。これに緊急的コスト抑制を加えましたコスト削減全体としましては、今期連結で▲1,170億円を削減する計画ですが、第1四半期で▲250億円を削減しています。
- なお、連結四半期純利益578億円につきましては、産業競争力強化法に基づく事業適応計画の認定によりまして、向こう5ヶ年の課税所得に対しまず繰越欠損金の控除限度額が拡大される特例を受けますことから、法人税等におきまして▲435億円減の税効果影響が発生しております。
- 足元での感染第7波の到来や、物価上昇・円安の影響など先行きの不透明感が増しているところではありますが、現時点、概ね想定の範囲内で推移していることを踏まえ、通期業績予想及び配当予想につきましては、期首時点の計画を据え置いております。
- 引き続き第2四半期以降も、お客様の属性やニーズ等に合わせた需要喚起策を講じてまいります。例えば、Z世代をターゲットとした現在売り出し中のサイコロきっぷは大変好評を博しており、WESTERのダウンロードを要件としておりますことから、新たなお客様層の行動分析にもつながるものと考えております。
- 次のページをご覧ください。

23.3期1Q決算・通期業績予想 運輸業



■ 営業収益

	(億円)	
	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
営業収益	1,108	1,714
うち単体運輸収入	989	1,577
新幹線	370	747
近畿圏	480	631
その他在来線	138	198

■ 営業利益

	(億円)	
	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
営業利益	▲474	89

■ EBITDA

	(億円)	
	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
EBITDA	▲164	391

■ ポイント

- 新幹線4月:55%程度、近畿圏4月:85%程度から緩やかに回復、12月末頃にコロナ前の9割に回復するとの想定に対し、第1四半期はやや上振れて推移。
- 第7波到来等による需要回復への影響も考慮し、通期予想は据え置く。

■ 23.3期における想定(前提)

山陽新幹線(新大阪～西明石間)・近畿圏(近距離券発売枚数)ご利用実績・想定(前提)

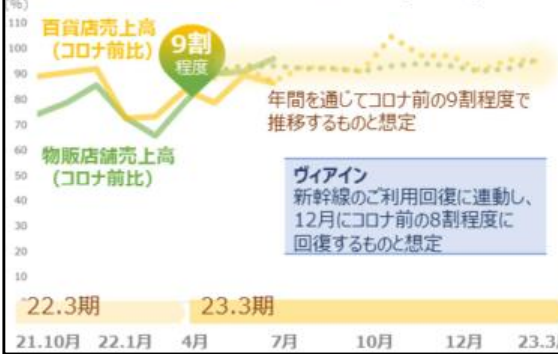


- それでは各事業別にご説明いたします。まず、運輸業です。
- 第1四半期の運輸収入は、1,577億円でした。これは、前年対比で+587億円増、コロナ前となる20年3月期対比では71%の水準でございます。
- 内訳はご覧のとおりですが、うち新幹線につきましては、山陽新幹線が680億円、北陸新幹線が66億円でした。
- 緩やかなご利用回復とともに、12月末頃にはコロナ前対比9割程度に回復するものとの前提に対し、ご覧のとおり第1四半期はやや上振れて推移しました。
- 一方、足元では第7波が到来していること等も踏まえ、通期計画は据え置いています。
- 次のページをご覧ください。

23.3期1Q決算・通期業績予想 流通業



23.3期における売上高想定(前提)



■ 営業収益 (主な内訳) (億円)

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
	258	370
物販飲食業	215	312
うち Viain	-12	23
百貨店業	33	46

■ 営業利益 (主な内訳) (億円)

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
	▲38	1
物販飲食業	▲30	2
うち Viain	▲14	▲6
百貨店業	▲6	▲1

■ EBITDA (主な内訳) (億円)

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
	▲24	15
物販飲食業	▲20	11
うち Viain	▲10	▲1
百貨店業	▲4	0

■ ポイント

- 第1四半期は、期間を通じて需要回復基調が継続し、物販飲食業・百貨店業ともに、概ね想定範囲内の実績。

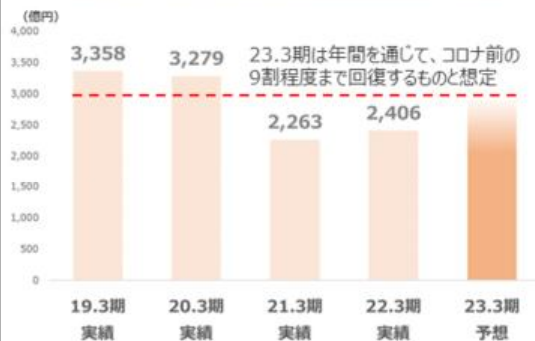
- 流通業です。
- 第1四半期は、前年対比+111億円の増収、同じく+39億円の増益となり、わずかではございますが、黒字となりました。
- 今期は物販店舗・百貨店とも、年間を通じてコロナ前対比9割程度の売上を想定しておりますが、今のところ概ね想定範囲内で推移しております。
- 次のページをご覧ください。

23.3期1Q決算・通期業績予想 不動産業



*21.3期以降は「収益計算に関する会計基準」を適用した期間です。(23.3期中計見直し時想定も除く)
 **19.3期～22.3期のEBITDAは訂正も反映させた数値です。なお、各期実績への影響はありません。

23.3期におけるSC売上高想定(前提)



営業収益 (主な内訳)

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
営業収益 (億円)	326	372
不動産賃貸・販売業	231	246
うち 不動産賃貸	118	126
不動産販売	112	119
SC業	90	124

※各内訳は主な子会社の会計簿であり、その合計はセグメント計と一致しません

営業利益 (主な内訳)

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
営業利益 (億円)	83	100
不動産賃貸・販売業	52	79
うち 不動産賃貸	42	40
不動産販売	10	38
SC業	6	19

※各内訳は主な子会社の会計簿であり、その合計はセグメント計と一致しません

EBITDA (主な内訳)

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
EBITDA (億円)	143	164
不動産賃貸・販売業	94	122
SC業	19	36

※各内訳は主な子会社の会計簿であり、その合計はセグメント計と一致しません

ポイント

- 新規開業物件やその平年度化、投資家向け販売が牽引し、対前年増収増益。概ね想定どおりの推移。

- 不動産業です。
- 第1四半期は、前年対比+46億円の増収、営業利益は同じく+16億円増益の100億円でした。
- 投資家向け販売が堅調に推移したほか、需要回復に伴うSC売上高の増等が牽引しました。
- 今期のSC売上高はコロナ前対比9割程度と想定しておりますが、今のところ概ね想定の内訳の範囲内の推移となっております。
- 次のページをご覧ください。

23.3期1Q決算・通期業績予想 その他事業（ホテル業・旅行業）

■ ホテル稼働率の推移



■ 23.3期における想定(前提)

【ホテル業】

- 4月の稼働率はコロナ前の7割程度
- 鉄道需要の回復に伴い、4Qでコロナ前の9割程度まで回復するものと想定

【旅行業】

- 4月における国内旅行商品の予約状況はコロナ前の3割程度
- 旅行需要の緩やかな回復に伴い、22年12月末時点で国内旅行収入はコロナ前の6割程度と想定

■ 営業収益（主な内訳）

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
ホテル業	33	69
旅行業	120	273

※各内訳は主の子会社の会計簿であり、その合計はセグメント計と一致しません

■ 営業利益（主な内訳）

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
ホテル業	▲30	▲9
旅行業	▲28	15

※各内訳は主の子会社の会計簿であり、その合計はセグメント計と一致しません

■ EBITDA（主な内訳）

	22.3期1Q実績	23.3期1Q実績
ホテル業	▲21	▲1
旅行業	▲27	15

※各内訳は主の子会社の会計簿であり、その合計はセグメント計と一致しません

■ ポイント

- ホテル業においては、鉄道のご利用回復とも連動し、需要回復に伴って客室稼働率が改善。3月のホテルヴィスキオ富山開業も増収に貢献した。
- 旅行業においては、ワクチン接種事務局業務などのソリューション事業が堅調な推移を見せ、計画を上回る実績となった。

- その他の事業です。
- ホテル業につきましては、ご覧のとおり客室稼働率は改善しており、前年対比では+35億円の増収、+20億円の増益となりましたが、本格的な需要回復にはなお時間を要しており、▲9億円の赤字となりました。
- 旅行業につきましては、ワクチン接種の事務局業務受託などのソリューション事業が牽引し、前年対比+153億円の増収、+43億円の増益となり、15億円の黒字となりました。
- なお、いずれの事業セグメントにおきましても、現時点、概ね想定の範囲内で推移していることから、通期業績予想は期首にお示したものを据え置いております。
- 最近のトピックスについてご説明いたします。
- 運賃・料金につきましては、先日、国の小委員会での中間とりまとめが公表されました。当面現行制度が前提とはなりますが、収入ニュートラルでも事業者による創意工夫の余地が拡大する方向性については歓迎しています。経営戦略上の最重要課題であるプライシングにて当社が実現したいことは、価格体系のシンプル化や需要に応じた弾力的な価格設定などです。今後具体的な検討がはじまる「総括原価の算定方法の見直し」や「現行制度の運用の改善・工夫」の中に仕組みとして取り込まれていくことを国に対して求めていく所存です。
- また、ローカル線への対応につきましても、先般、国の検討会による提言が発表されました。国の積極的・主体的関与に期待しますと同時に、今後も各地域のまちづくりに合わせた最適な地域交通体系を地域の皆様とともに創り上げていくという当社の決意が変わりはありません。
- 最後に、withコロナでスタートした今期ですが、第1四半期は、運輸収入が20年3月期対比でおよそ7割ながら200億円弱の営業黒字となりました。これは、物価上昇・円安といった外部要因に起因するコスト増がありながらも、構造改革によるコスト削減を拡大させつつ、可能な限りの緊急的コスト削減を継続した結果ととらえております。
- 引き続き、できるだけ早期のコロナ前水準への回復を念頭に、①鉄道を中心とした各事業の構造改革、②地域共生とまちづくり、③新たな価値の創出、④DXによる、これらにおけるキーデバイス構築とグループマーケティングをベースに、次期中計の策定を進めてまいります。
- 私からの説明は以上です。

1 23.3期第1四半期決算及び通期予想の概要 P. 3

2 23.3期第1四半期決算及び通期予想（詳細） P. 9

決算ハイライト

(単位：億円)

	2022年3月期 1Q実績 A	2023年3月期 1Q実績 B	対前年		2022年3月期 通期末績 C	2023年3月期 通期予想 (8/2) [*] D	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
【連結】								
営業収益	2,019	2,971	+951	147.1	10,311	13,090	+2,778	127.0
営業利益又は損失(▲)	▲493	195	+689	-	▲1,190	300	+1,490	-
経常利益又は損失(▲)	▲515	169	+684	-	▲1,210	135	+1,345	-
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益又は純損失(▲)	▲320	578	+899	-	▲1,131	585	+1,716	-
【単体】								
営業収益	1,192	1,801	+609	151.2	5,776	7,690	+1,913	133.1
運輸収入	989	1,577	+587	159.4	4,876	6,730	+1,853	138.0
営業費用	1,615	1,665	+49	103.1	7,046	7,645	+598	108.5
人件費	458	446	▲11	97.5	1,807	1,775	▲32	98.2
物件費	700	761	+60	108.7	3,347	3,975	+627	118.8
動力費	88	118	+29	133.7	408	590	+181	144.6
修繕費	245	238	▲7	97.0	1,367	1,510	+142	110.5
業務費	366	404	+38	110.4	1,572	1,875	+302	119.3
減価償却費	308	300	▲7	97.4	1,272	1,255	▲17	98.6
営業利益又は損失(▲)	▲423	136	+560	-	▲1,270	45	+1,315	-
経常利益又は損失(▲)	▲451	104	+556	-	▲1,382	▲100	+1,282	-
四半期(当期)純利益又は純損失(▲)	▲235	563	+798	-	▲1,216	480	+1,696	-

*2022年4月28日発表の通期予想から変更しておりません。

単体損益計算書と業績予想

(単位: 億円)

	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期 1Q実績	対前年		2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期予想 (8/2)*	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
	A	B			C	D		
営業収益	1,192	1,801	+609	151.2	5,776	7,690	+1,913	133.1
運輸入入	989	1,577	+587	159.4	4,876	6,730	+1,853	138.0
その他収入	202	224	+22	110.9	899	960	+60	106.7
営業費用	1,615	1,665	+49	103.1	7,046	7,645	+598	108.5
人件費	458	446	▲11	97.5	1,807	1,775	▲32	98.2
物件費	700	761	+60	108.7	3,347	3,975	+627	118.8
動力費	88	118	+29	133.7	408	590	+181	144.6
修繕費	245	238	▲7	97.0	1,367	1,510	+142	110.5
業務費	366	404	+38	110.4	1,572	1,875	+302	119.3
線路使用料等	66	66	▲0	99.7	267	270	+2	100.8
租税公課	82	91	+8	110.5	351	370	+18	105.3
減価償却費	308	300	▲7	97.4	1,272	1,255	▲17	98.6
営業利益又は損失(▲)	▲423	136	+560	-	▲1,270	45	+1,315	-
営業外損益	▲27	▲31	▲3	-	▲112	▲145	▲32	-
営業外収益	32	22	▲9	-	133	80	▲53	-
営業外費用	59	54	▲5	-	246	225	▲21	-
経常利益又は損失(▲)	▲451	104	+556	-	▲1,382	▲100	+1,282	-
特別損益	6	72	+65	-	110	170	+59	-
特別利益	31	95	+64	-	541	185	▲356	-
特別損失	25	23	▲1	-	431	15	▲416	-
四半期(当期)純利益又は純損失(▲)	▲235	563	+798	-	▲1,216	480	+1,696	-

*2022年4月28日発表の通期予想から変更しておりません

運輸収入の主な増減要因

(単位：億円)

		2023年3月期 1Q実績			
		運輸収入	対前年	主な増減要因	
新幹線		747	+376 (201.6%)	基礎トレンド(100.0%)	
				・コロナ影響の低減	+372
	特 殊 要 因				
				等	
在 来 線	近畿圏	631	+151 (131.5%)	基礎トレンド(100.0%)	
				・コロナ影響の低減	+147
	特 殊 要 因				
				等	
	その他	198	+59 (143.2%)	基礎トレンド(100.0%)	
				・コロナ影響の低減	+58
特 殊 要 因					
	等				
	在来線計	829	+211 (134.1%)		
	運輸収入計	1,577	+587 (159.4%)		

※荷物収入は金額些少のため省略

運輸収入と旅客輸送の実績と業績予想

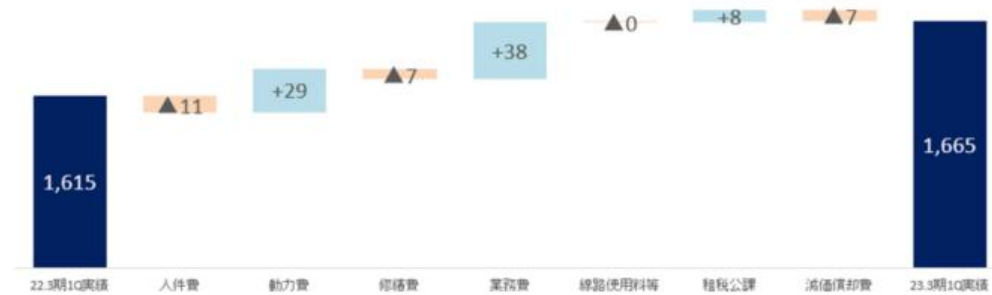
	運輸収入 (単位: 億円)						輸送人口 (単位: 百万人人口)		
	1Q実績 (4/1~6/30)			通期実績/予想			1Q実績 (4/1~6/30)		
	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年	2022年 3月期 通期実績	2023年 3月期 通期予想 (8/2)*	対前年	2022年 3月期	2023年 3月期	対前年
全社計	989	1,577	+587 159.4%	4,876	6,730	+1,853 138.0%	8,398	11,188	+2,790 133.2%
新幹線	370	747	+376 201.6%	2,116	3,390	+1,273 160.2%	1,697	3,373	+1,675 198.7%
定期	26	28	+1 105.1%	106	-	-	211	223	+11 105.6%
定期外	343	719	+375 209.1%	2,010	-	-	1,486	3,149	+1,663 211.9%
在来線	618	829	+211 134.1%	2,760	3,340	+579 121.0%	6,700	7,815	+1,115 116.6%
定期	304	314	+10 103.5%	1,191	-	-	5,049	5,235	+186 103.7%
定期外	314	515	+200 163.7%	1,569	-	-	1,651	2,580	+928 156.3%
近畿圏	480	631	+151 131.5%	2,107	2,510	+402 119.1%	5,351	6,206	+855 116.0%
定期	249	259	+9 104.0%	978	-	-	4,108	4,279	+171 104.2%
定期外	231	372	+141 161.2%	1,128	-	-	1,242	1,926	+684 155.0%
その他	138	198	+59 143.2%	653	830	+176 127.1%	1,349	1,609	+259 119.3%
定期	54	55	+0 101.6%	212	-	-	941	955	+14 101.6%
定期外	83	142	+58 170.7%	440	-	-	408	653	+244 160.0%

*2022年4月28日発表の通期予想から変更していません

単体営業費用の主な増減要因

(単位：億円)

	2023年3月期 1Q実績			主な増減要因
		対前年		
人件費	446	▲ 11	97.5%	人員の減 等
動力費	118	+29	133.7%	燃料費調整額の増 等
修繕費	238	▲ 7	97.0%	コスト構造改革による減 等
業務費	404	+38	110.4%	収入連動経費の増、広告宣伝費の増、燃料費調整額の増 等
線路使用料等	66	▲ 0	99.7%	
租税公課	91	+8	110.5%	法人事業税の増 等
減価償却費	300	▲ 7	97.4%	償却進捗 等
営業費用計	1,665	+49	103.1%	



連結損益計算書と業績予想

(単位：億円)

	2022年3月期 1Q実績 A	2023年3月期 1Q実績 B	対前年		2022年3月期 通期実績 C	2023年3月期 通期予想 (8/2)* D	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A			増減 D-C	比率(%) D/C
営業収益	2,019	2,971	+951	147.1	10,311	13,090	+2,778	127.0
営業費用	2,513	2,776	+262	110.4	11,501	12,790	+1,288	111.2
営業利益又は損失(▲)	▲ 493	195	+689	-	▲ 1,190	300	+1,490	-
営業外損益	▲ 21	▲ 26	▲ 4	-	▲ 19	▲ 165	▲ 145	-
営業外収益	46	30	▲ 15	-	236	72	▲ 164	-
営業外費用	68	56	▲ 11	-	255	237	▲ 18	-
経常利益又は損失(▲)	▲ 515	169	+684	-	▲ 1,210	135	+1,345	-
特別損益	▲ 3	43	+47	-	154	90	▲ 64	-
特別利益	43	68	+25	-	588	-	-	-
特別損失	47	25	▲ 21	-	433	-	-	-
親会社株主に帰属する 四半期(当季)純利益又は純損失(▲)	▲ 320	578	+899	-	▲ 1,131	585	+1,716	-
包括利益	▲ 330	588	+918	-	▲ 1,122	-	-	-

*2022年4月28日発表の通期予想から変更していません

セグメント情報と業績予想

(単位：億円)

	2022年3月期 1Q実績	2023年3月期 1Q実績	対前年		2022年3月期 通期実績	2023年3月期 通期予想 (8/2) ^{*1}	対前年	
			増減	比率(%)			増減	比率(%)
			B-A	B/A			D-C	D/C
	A	B			C	D		
営業収益 ^{*1}	2,019	2,971	+951	147.1	10,311	13,090	+2,778	127.0
運輸業	1,108	1,714	+606	154.8	5,441	7,390	+1,948	135.8
流通業	258	370	+111	143.0	1,242	1,680	+437	135.2
物販・飲食	215	312	+97	145.2	1,020	1,390	+369	136.3
【密泊特化型ホテル】(再掲) ^{*2}	【12】 ^{*4}	【23】	【+11】	【188.3】	【62】	【125】	【+62】	【199.5】
百貨店	33	46	+12	137.8	181	240	+58	132.5
不動産業	326	372	+46	114.2	1,511	1,620	+108	107.2
ショッピングセンター	90	124	+33	137.5	456	540	+83	118.3
不動産賃貸・販売	231	246	+15	106.6	1,040	1,075	+34	103.3
【不動産販売】(再掲)	【112】	【119】	【+7】	【106.4】	【566】	【573】	【+6】	【101.2】
その他	326	513	+187	157.4	2,115	2,400	+284	113.5
ホテル	33	69	+35	206.5	185	315	+129	169.6
旅行	120	273	+153	227.6	959	1,110	+150	115.7
営業利益又は損失(▲) ^{*1}	▲493	195	+689	-	▲1,190	300	+1,490	-
運輸業	▲474	89	+563	-	▲1,443	▲110	+1,333	-
流通業	▲38	1	+39	-	▲86	20	+106	-
物販・飲食	▲30	2	+32	-	▲71	10	+81	-
【密泊特化型ホテル】(再掲) ^{*2}	【▲14】	【▲6】	【+8】	-	【▲43】	【▲20】	【+23】	-
百貨店	▲6	▲1	+4	-	▲14	5	+19	-
不動産業	83	100	+16	119.3	300	350	+49	116.6
ショッピングセンター	6	19	+13	316.8	45	70	+24	154.1
不動産賃貸・販売	52	79	+26	151.2	172	200	+27	115.9
【不動産販売】(再掲)	【10】	【38】	【+28】	【376.2】	【64】	【72】	【+7】	【112.3】
その他	▲70	▲6	+63	-	29	70	+40	235.1
ホテル	▲30	▲9	+20	-	▲90	▲40	+50	-
旅行	▲28	15	+43	-	24	0	▲24	-

^{*1} 各セグメントの内訳は、主な子会社の合計額であり、セグメント計と一致しません

^{*2} 密泊特化型ホテル(グアイン)の合計額です。ただし、浅草店(その他業)、広島銀山町店(その他業)は除きます

^{*3} 2022年4月28日発表の通期予想から変更していません

^{*4} 訂正を反映させた数値です。なお、22.3期上期及び通期実績への影響はありません。

各セグメントの主な増減要因

(単位：億円)

			2023年3月期 1Q実績			主な増減要因
			対前年			
			増減	比率(%)		
流通業	物販・飲食	営業収益	312	+97	145.2	・緩やかな需要回復による構内店舗、宿泊特化型ホテルの売上増 等
		営業利益	2	+32	-	
	百貨店	営業収益	46	+12	137.8	・緩やかな需要回復による店舗の売上の増 等
		営業損失	▲ 1	+4	-	
不動産業	ショッピングセンター	営業収益	124	+33	137.5	・SC売上高回復による賃料収入の増、富山「MAROOT」開業 等
		営業利益	19	+13	316.8	
	不動産賃貸・販売	営業収益	246	+15	106.6	・賃貸物件の平年度化、投資家向け販売の増 等
		営業利益	79	+26	151.2	
その他	ホテル	営業収益	69	+35	206.5	・緩やかな需要回復による宿泊部門の売上増 等
		営業損失	▲ 9	+20	-	
	旅行	営業収益	273	+153	227.6	・旅行、非旅行事業の増 等
		営業利益	15	+43	-	

※各セグメントの内訳は、主な子会社の会計値であり、セグメント計と一致しません

連結財政状況

(単位：億円)

	2022年3月期 期末 A	2023年3月期 1Q期末 B	増減 B-A
資産	37,024	36,795	▲228
負債	26,282	25,599	▲682
純資産	10,742	11,196	+454
長期債務残高	17,248	16,948	▲300
【長期債務平均金利 (%)】	【1.17】	【1.19】	【+0.02】
新幹線債務	998	998	-
【新幹線債務平均金利 (%)】	【6.55】	【6.55】	【-】
社債	9,749	9,749	+0
【社債平均金利 (%)】	【0.98】	【0.98】	【-】
DER	1.8	1.7	▲0.1
自己資本比率 (%)	26.2	27.6	+1.4
1株当たり純資産 (円)	3,973.15	4,160.82	+187.67

諸元表

(単位：人、億円)

	2022年3月期 1Q実績		2023年3月期 1Q実績		2022年3月期 通期実績		2023年3月期 通期予想(8/2) ^{*2}	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
連結ROA (%)	-		0.5		-		0.8	
連結ROE (%)	-		5.8		-		5.9	
連結EBITDA ^{*1}	▲ 105		581		429		1,930	
連結減価償却費	385		386		1,608		1,630	
連結設備投資 (自己資金)	299		263		2,131		2,450	
単体設備投資 (自己資金)	181		156		1,494		1,640	
安全関連投資	96		67		830		730	
1株当たり配当金 (円)	-		-		100.0		100.0	

	2022年3月期 1Q実績		2023年3月期 1Q実績		2022年3月期 通期実績		2023年3月期 通期予想(8/2) ^{*2}	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数 (就業人員)	48,737	24,124	46,900	22,832	46,779	22,715	-	-
金融収支	▲ 49	▲ 35	▲ 45	▲ 37	▲ 181	▲ 188	▲ 198	▲ 181
受取利息・配当金	3	16	5	14	32	24	12	26
支払利息	52	52	51	51	214	212	210	208

^{*1} EBITDA = 営業利益又は損失 + 減価償却費 + のれん償却額

^{*2} 2022年4月28日発表の通期予想から変更していません

将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、JR西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとする重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
 - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
 - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
 - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
 - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
 - 感染症の発生・流行
 - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2022年8月2日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2022年8月2日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。
JR西日本ホームページ「IR情報」 <https://www.westjr.co.jp/company/ir/>